

平成15年度 板橋区区民意識意向調査

参考資料



板橋区の現状と区への取り組み

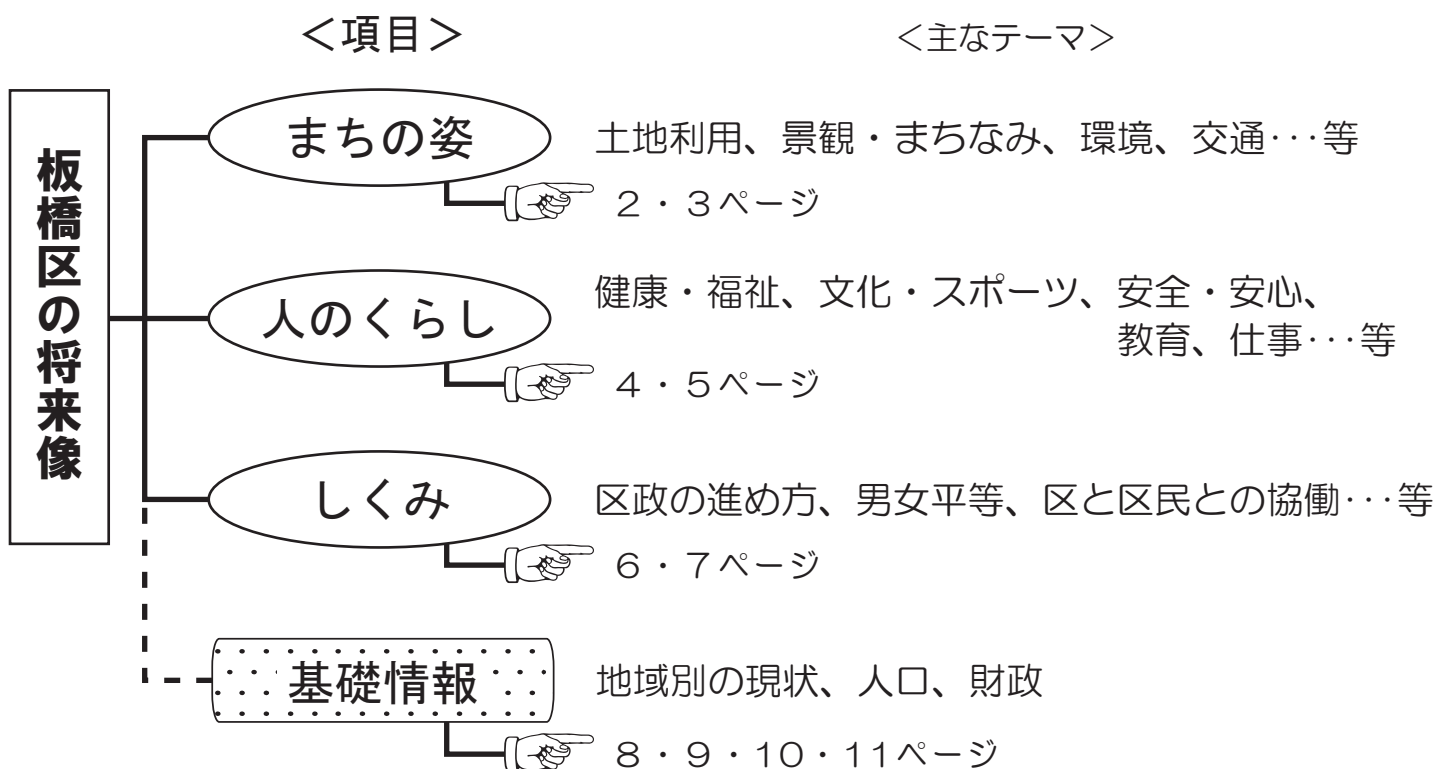


この資料は、みなさんが区民意識意向調査について答えていただくうえでの参考資料です。

(この参考資料は、返信用封筒には封入しないでください。)

<参考資料の構成>

この参考資料では、調査票にあわせ、板橋区の将来像について3つの項目（まちの姿・人のくらし・しくみ）に分けて、近年の板橋区の状況や取り組みの一部を紹介しています。また区の基礎情報として、「地域別の現状」や「人口」、「財政」の状況についてご紹介しています。



※ 本資料は区民意識意向調査の参考とするための資料であり、掲載した内容は区が進めている施策をすべて示しているものではありません。

まちの姿

板橋区では、地域ごとに「まちの姿」に特徴があります。（「地域別の現状」＜8ページ＞参照）
 あなたはお住まいの地域の「まちの姿」は将来どうなっていればよいとお考えでしょうか。
 「まちの姿」が将来、望ましいものとなるために、これから区と区民のみなさんは「どんなことに取り組むべき」でしょうか。

土地利用

- 区内の民有宅地の81.2%（平成7年）は住宅地であり、都心部近郊の住宅都市としての役割を担っています。
- 住宅が密集しているうえ、道が狭く、近くに公園がない等から、大地震のときに、大きな被害を受けることが心配される地域があります。
- 農地や樹林地などの緑被地は、減少傾向にあります。
- 公園面積は区全体でみると、区民1人当たり6㎡の目標に対し、3.41㎡となっています。
- 区内には、歩いていける商店街（平成15年現在で105）が多くあります。
- 新河岸川沿岸や中山道周辺などで工場が集積しており、23区内でも有数の工業都市です。

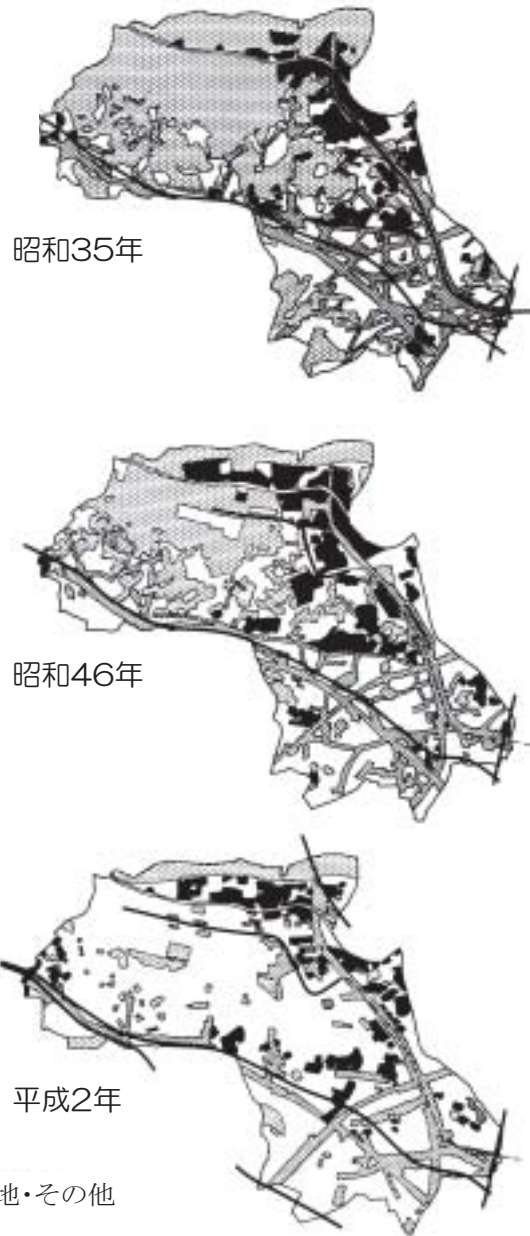


- 住宅地
- 商業地
- 工業地
- 農業・緑地・その他
- 鉄道

景観・まちなみ

- 台地と川による特色ある自然地形により、荒川の河川敷や、赤塚地域の崖線など、特徴のある自然景観があります。
- 赤塚城址や板橋宿、神社やお寺、趣のある民家など、歴史・文化を感じる資源が多く残っています。
- 市街地の建物は個々に色やデザイン、高さが異なり、多様な景観がみられます。
- 近年では、歴史や自然を活かした、ゆとりを感じられる、美しい景観の保全・創造が求められています。

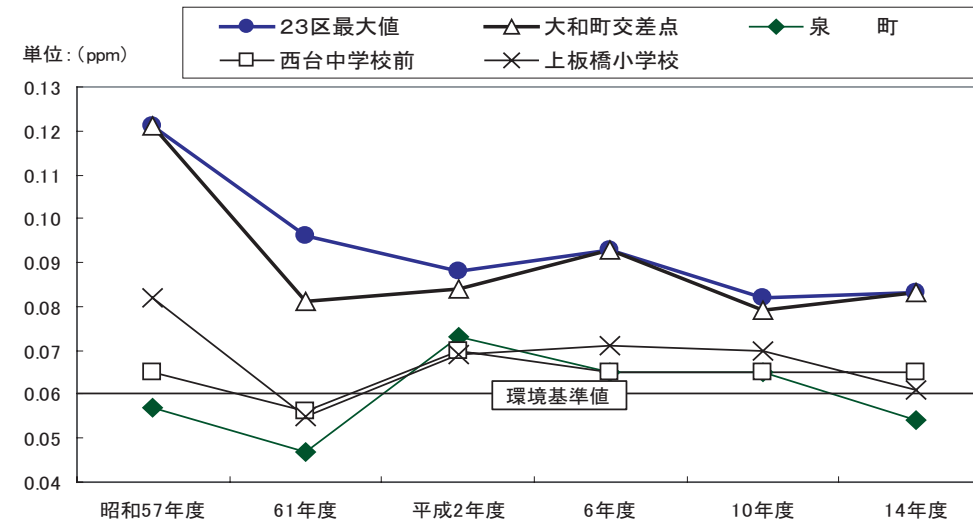
データ 【土地利用の変遷】



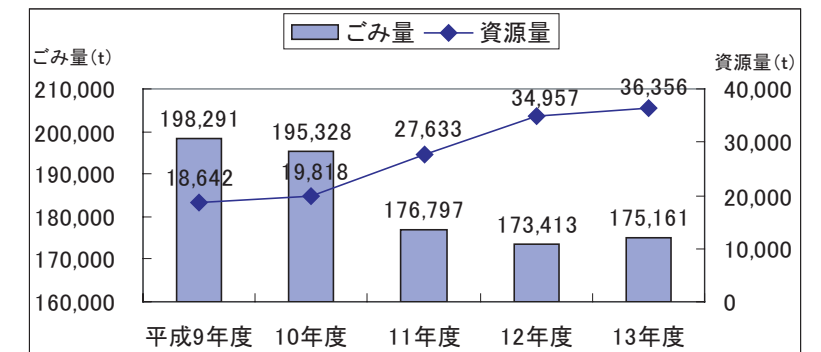
環境

- 減少傾向にあるまちの中のみどりを維持するために、区では自然林の保全やブロック塀の生垣化、公共施設の緑化などを進めています。
- 区内には荒川、石神井川、新河岸川などの河川や水路があり、貴重なみどりと、水の空間となっています。
- 大和町交差点付近の道路渋滞による大気汚染や騒音など、公害が問題となっているところがあります。
- 区では、「エコポリス板橋」環境都市宣言に基づき、環境について学べるエコポリスセンターの整備、リサイクルへの積極的な取り組み、地球にやさしい低公害車の普及などを進めています。

データ 【大気汚染状況（大気中の二酸化窒素〈NO₂〉の量「日平均98%値」）の推移】



データ 【ごみ収集量の推移】



交通

- 区内には都営三田線、有楽町線、東武東上線、JR線の計24の鉄道駅があります。
- バス路線は、民間バス事業者により、充実した路線網が整備されています。
- 中山道、川越街道、環状7号線など、周辺の区とを結ぶ幹線道路の整備は比較的進んでいますが、区内の各所にて慢性的な渋滞が見られます。
- 一部の地域で、幹線道路の渋滞を避ける車が通過するなど交通安全の面での問題があります。
- 近年では、だれもが安全かつ支障がなく移動できるよう、歩道や駅周辺での「バリアフリー化」が求められています。

人のくらし

区では、豊かなくらしをめざして、さまざまな事業が行われています。

あなたは「人のくらし」は将来どうなっていればよいとお考えでしょうか。

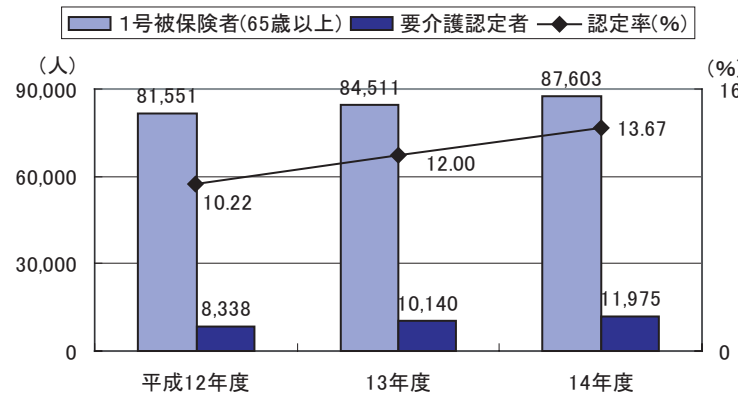
「人のくらし」が将来、望ましいものとなるために、これから区と区民のみなさんは「どんなことに取り組むべき」でしょうか。

健康・福祉

- 高齢化の進行にあわせて、高齢者の生きがいづくりや介護が課題となってきています。
- 病気にならないための予防、医療費の節減などとあわせて、健康に対する関心が高まっています。
- 子どもから高齢者まで、だれもが安心して暮らせるよう、福祉の充実が望まれています。
- 子育ての不安や負担を取り除き、地域で子育てを支える体制づくりが望まれています。

データ

【介護が必要な高齢者の割合の推移】



話題 【子育てを支援します】

区では、短時間の保育サービスを行う区民の主体的な子育て援助活動を支援する「ファミリー・サポート・センター事業」を行っています。

ファミリー・サポートは子どもを預けたい人（利用会員）と子どもを保育する人（援助会員）がお互いに助け合うシステムで、保育園の送迎やちょっとした用事の際でも1時間から子どもを預けることができます。

文化・スポーツ

- 価値観の多様化により、生活の豊かさを求めるために、文化活動やスポーツ活動に対する関心が高まっています。
- 区立美術館における各展覧会の開催や生涯学習講座、イベントをとおして、より文化活動にふれる機会の増加が望まれています。
- 花火大会や区民まつりなど板橋らしい地域文化を育む活動が実践されています。
- 体育施設や学校施設の開放、またスポーツ教室や講習会などを通じて、気軽にスポーツを楽しめるプログラムの充実が望まれています。



話題 【「東京・荒川市民マラソン in ITABASHI」の開催】

区では毎年、1万人以上が参加する「東京・荒川市民マラソン in ITABASHI」を開催しています。一般の参加者以外に、学生や車いすの方なども参加しています。また、毎年たくさんのボランティアが大会をサポートしています。



安全・安心

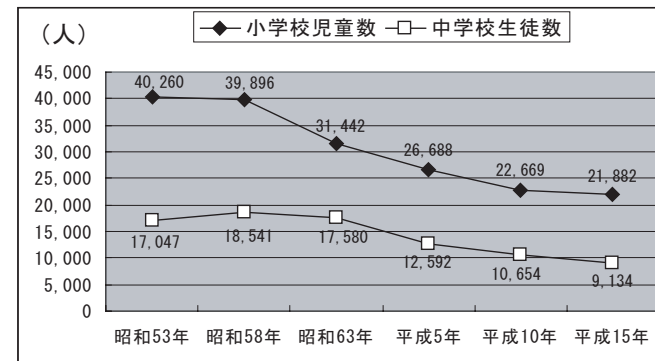
- 全国的に犯罪が増加傾向にある中、区においても、区内の犯罪件数は近年増加しています。
- 警察のみならず、地域住民をはじめとして地域が一体となって防犯活動を行うため、区では生活安全条例を施行しました。（平成14年4月）
- 近年、区内における自転車の交通事故の増加などに伴い、本年4月に全国で初めて自転車の安全利用についての条例を定めました。

教育

- 学校が週5日制になりました。
- 学校選択制などによる学校の特性を活かした「生きる力」をはぐくむ教育が進められています。
- 少年犯罪の低年齢化、増加が話題となり、家庭・地域・学校の連携が一番重要となっています。

データ

【区内小学校児童数・中学校生徒数の推移】



話題 【「いきいき寺子屋事業」】

親子のふれあいの拡大を通して、家庭の教育力の向上をめざし、区内19の学校において工作や料理・アウトドア・パソコンなど、さまざまな体験教室・プログラムを地域のみなさんと協力して提供する「いきいき寺子屋事業」を開催しています。



仕事

- 長引く不景気のおりや後継者難などに伴い、区の商工業を取り巻く環境は厳しさを増しています。
- 価値観の多様化などにより、自宅などを事務所とするSOHOやコミュニティビジネスなど、従来とは違った様々な働き方が増えています。

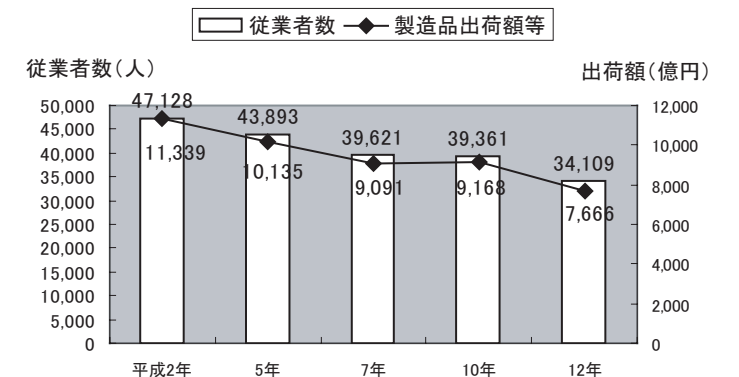


話題

【コミュニティビジネスの支援】

区では、地域の生活課題に対応したサービスを提供するコミュニティビジネスの支援を積極的に行っています。昨年度のワークショップ（勉強会・交流会）を経て、今年度は創業資金の助成等を行うコミュニティビジネス・コンテストを開催しています。

データ 【区内における工業に関する指標の推移】



しくみ

区では、社会の変化に対応するため、よりよい「しくみ」づくりに取り組んでいます。
これから区と区民のみなさんは、「しくみ」づくりに
ついて「どんなことに取り組むべき」でしょうか。

区政の進め方

【区政の情報提供】

- 区では、区民のみなさんに、区政の取り組みや、行事などのお知らせを、きめ細かく情報提供するため、「広報いたばし」を、週刊で発行しています。
- 区では、平成9年より、インターネットのホームページを立ち上げ、随時、情報の更新や利用環境をよりよいものにし、情報提供を進めています。

【区民参加】

- 区の施策・事業を実施する場合、計画段階から区民のみなさんのご意見をうかがう機会として懇談会や説明会、意識調査（アンケート調査）などを行い、ご意見の反映に努めています。

【区政の経営改革】

- 区では、経営改革の徹底を図るため、学識経験者・区民委員からなる「板橋区経営刷新会議」を本年5月に設置し、公共サービスの民間開放、企業的経営手法の適用方策、区民満足度を高める行政のあり方、財政構造の見直しなどを進めています。
また、外部評価を含めた行政評価を平成14年度から実施し、施策の達成状況、進行管理のあり方を検討しています。

話題

【いたばし・eモニター制度】

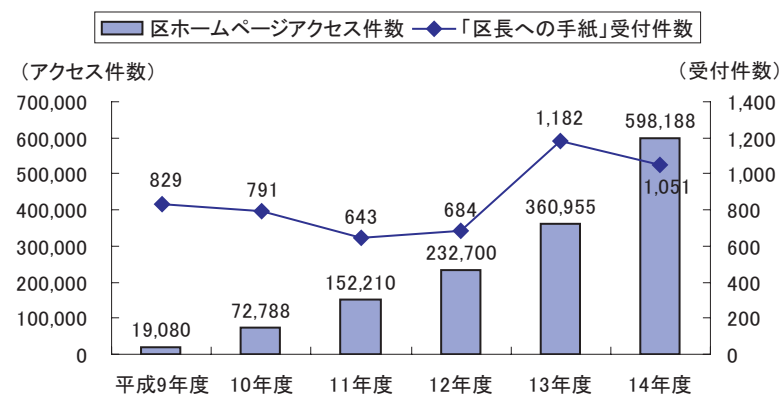
～インターネットで
みなさんの声を区政に～

区では、区政の課題に関して、みなさんのご意見やご要望を迅速に把握し、効果的に区政に反映させるため、インターネットを利用した区政モニター制度「いたばし・eモニター」を導入しています。

この制度は、従来の「いたばし・タウンモニター」制度に加えて、昼間お勤めしている方や若い世代の方の声を今まで以上に区政に取り入れるために始めたものです。

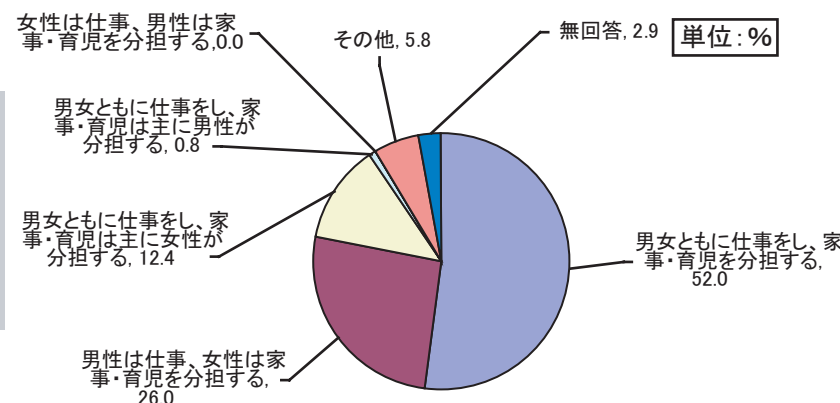
データ

【区ホームページのアクセス数と「区長への手紙」受付件数の推移】



データ

【家庭生活における男女の役割分担に関する意識調査】



平成12年「板橋区男女平等に関する意識・実態調査」

男女平等

- すべての区民の人権が尊重され、性別による差別のない社会を築き、豊かで活力ある地域社会の実現を図るため、区では本年4月に「男女平等参画基本条例」を制定しました。

区と区民との協働

【協働】

- 従来の社会システムでは対応できない問題が増加する一方で、社会的な課題に主体的に取り組むボランティア・NPOなどの市民活動が活発化し、その役割と重要性が多くの人に認識されるようになってきました。
- このような時代の中で、ボランティア・NPOと行政は、共通する課題の解決に向けて、互いにその存在を認識し、連携をとりながら「協働」の関係を築き上げるとともに、各々の特性を活かした社会サービスを提供していくことが求められています。
- 区では平成12年度よりNPOと行政の協働のあり方について、庁内や地域のNPO・市民のみなさんと話し合いを続け、平成14年3月に「ボランティア・NPOと区との協働に関する推進計画」を策定しました。

【町会・自治会】

- 区内には、223の町会・自治会があり、青少年の育成・防災や防犯など幅広い活動を行い、区とともに住みよいまちづくりに取り組んでいます。

協働とは・・・？

相互の立場や特性を認め、共通する課題の解決や社会的目的の実現に向けて、協力すること。

NPO (nonprofit organization) とは・・・？

NPO法人（特定非営利活動法人）やボランティア団体だけではなく、福祉や環境、国際協力などの社会的課題に、市民が主体となって取り組んでいる民間の非営利組織のこと。
※「非営利」とは「無償」を意味するのではなく、利益（剰余金）を団体の構成員で配分しないことを意味します。

話題

【ボランティア・NPOと区との協働事業】

区では、NPOなどの社会貢献活動団体との協働による事業を多く実施しています。
平成14年度では、129事業、協働団体が296団体（延べ372団体）となっています。

＜協働事業の事例＞

- いたばしボランティア・NPOホールの施設管理
 - 児童館でのお話会などプログラムの運営
 - いきいき寺子屋事業
 - 公園の里親制度（区民による管理）
 - 環境学習講座
 - 商店街の空き店舗活用支援
 - 高齢者・障害者の方へのホームヘルプサービス
 - 学童クラブ
 - ビオトープ（自然観察園）の維持・管理
 - 学習サロンなど生涯学習講座
 - 板橋環境会議
- など

話題

【公園づくりワークショップ】

公園の整備にあたって、ワークショップを実施し、利用される区民のみなさんの意見を反映しました。
完成後の公園は、「公園の里親制度」により、区民のみなさんの手により維持管理が行われています。



地域別の現状

赤塚地域

- 東武東上線や川越街道などに沿って、商業や業務用の建物が集積しています。
- その他は、市街化が進行していますが、農地や樹林地など豊かなみどりが残り、古き良き武蔵野の面影を残した住宅地が広がっています。赤塚城址周辺などは特に、自然や文化が感じられる地域です。
- 人口は約10万人で、増加傾向が続いています。
- 65歳以上の人口割合が低く、20歳代の人口割合が高いことが特徴になっています。
- 他の地域に比べて、全体的にみどりが多くみられる地域ですが、農地が住宅地に変わるなど、みどりが少なくなってきました。



高島平地域

- 大規模な高島平団地を中心として、道路や公園が整備された住宅地と荒川・新河岸川沿いや中山道沿道に立地する大小の工場などで形成されています。
- 人口は約10万人で、近年は、やや減少する傾向にあります。
- ファミリー世帯の多い地域ですが、今後は、高齢化が急速に進行すると考えられます。
- 工場を中心とする地区において、工場が住宅や商業施設に建て替わることが多くなっています。



志村地域

- 昭和の初期から印刷・機械工業などの産業の拠点として発展してきました。近年は、工場跡がマンションになる動きが活発です。
- 人口は約11万で、近年は、やや増加する傾向にあります。
- 単身世帯や二人世帯が多く、高齢化が進行しています。
- 北部には崖線の樹林地など比較のみどりが多く見られますが、それ以外は、みどりが少ない状況です。



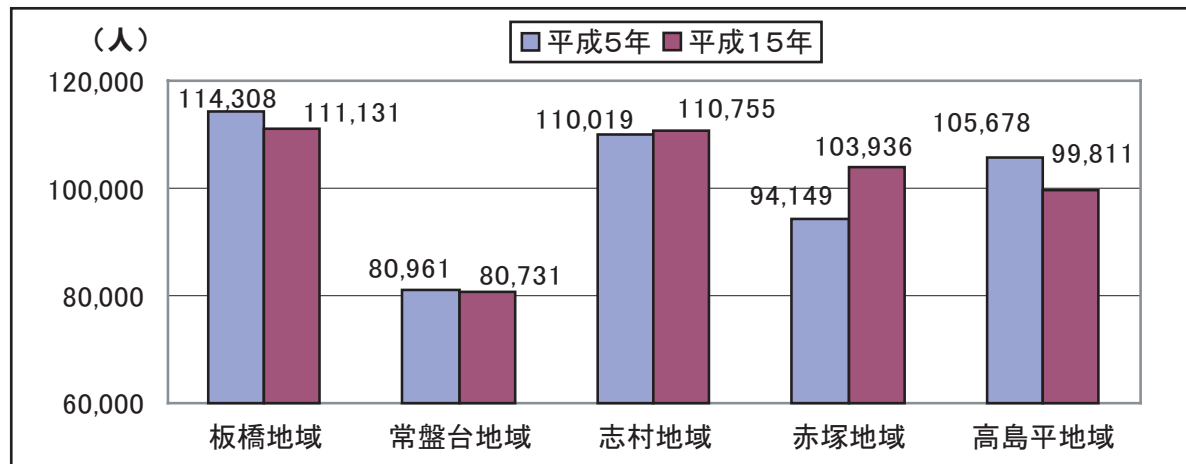
常盤台地域

- 川越街道や東武東上線の駅を中心として発展した住宅地です。
- 都立城北中央公園や石神井川は、貴重なみどりと水の空間となっています。
- 人口は約8万で、減少から横ばい傾向にあり、高齢化が進行しています。
- 常盤台のようにみどりが豊かで道路も整備されている地区がある一方、道路や公園が十分に整備されずに、住宅が密集している地区もあります。

板橋地域

- 江戸時代から宿場町（板橋宿）として栄え、中山道・川越街道沿いに市街化が進んできました。
- 区役所・文化会館・図書館のほか、税務署・警察署・消防署など、国や都の機関も立地し、行政機関や文化施設の集積する地域です。
- 人口は約11万で、近年は、減少・横ばい傾向にあります。
- 65歳以上の人口割合が高く、20歳代の人口が多いことなどから、ファミリー世帯が少なく、単身世帯が多い状況となっています。
- 住宅を中心に、商業や工業の建物が多くなっています。
- 建物が多く、みどりは加賀周辺を除いて少なくなっています。

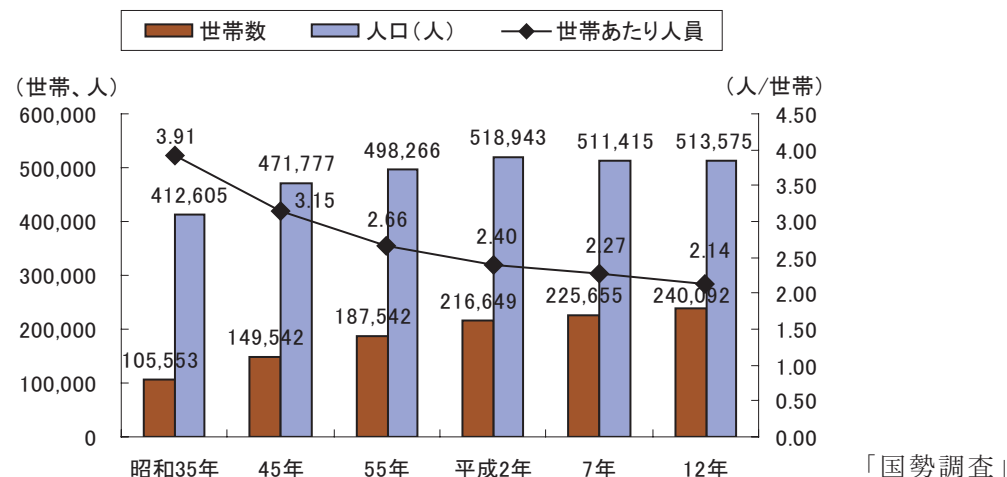
データ 【地域別人口の推移（住民基本台帳）】



人口

区の人口は、平成3、4年ころまで増加傾向にありました。その後数年間は減少傾向にありましたが、近年、地価の下落と住宅建設に伴う区内回帰によって再び人口は増加しています。世帯数は、平成12年の国勢調査時では240,092世帯となっており、微増傾向が続いています。このため、人口を世帯数で割った「世帯あたり人員」は減少しており、家族の小規模化がすすんでいます。

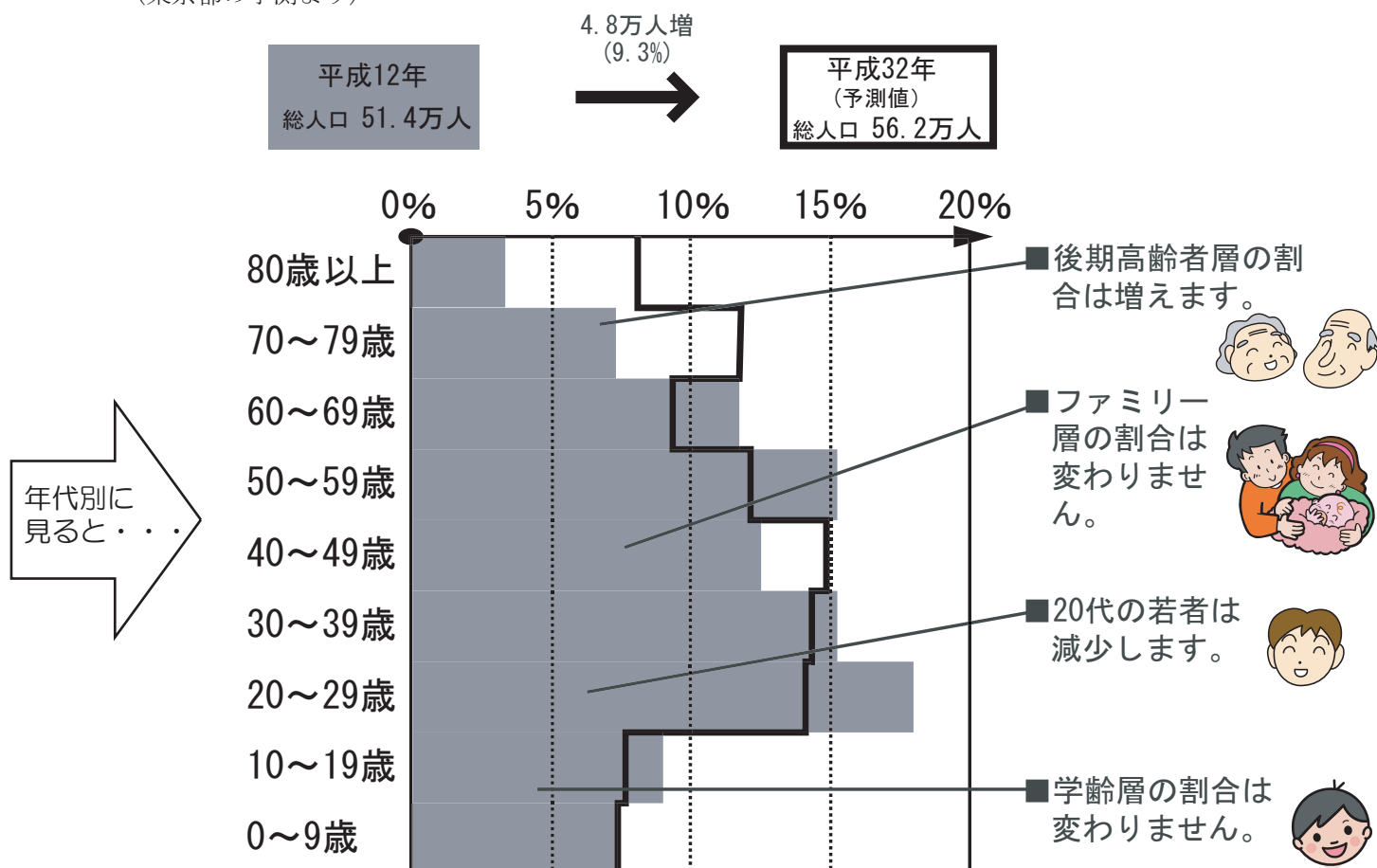
【区内の人口・世帯数の推移】



将来の人口については、東京都の予測では、20年後はさらに人口が増加すると予想されています。20年後の年代別の人口割合は、後期高齢者（75歳～）の割合が増え、生産年齢層（15歳～64歳）の割合が低下することが予想されます。

＜板橋区の20年後の人口予測＞

（東京都の予測より）



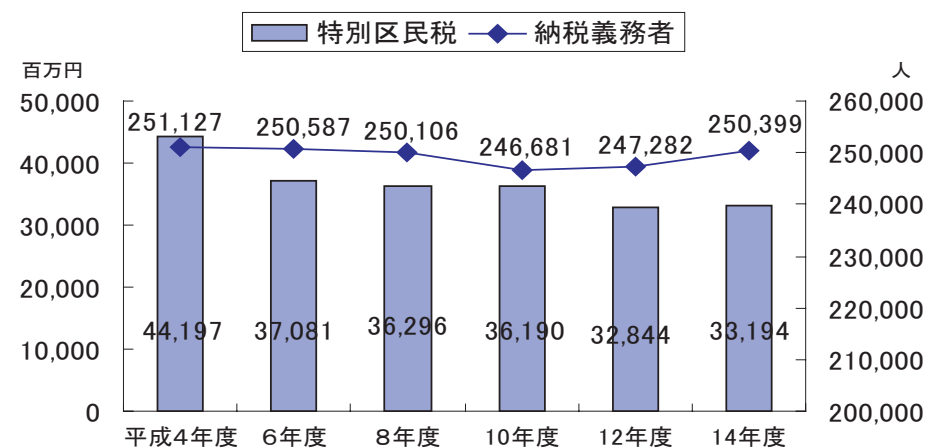
財政

平成15年度は、長引く不況の影響を受け、税収が落ち込みましたが、基金や区債（借金）の活用等により、前年並みの財源確保を図りました。今後も、区財政は厳しい状況が続くと予想されます。

近年では、納税義務者の人数がほとんど変化していないにもかかわらず、特別区民税の徴収額が減少しています。

こうした中で、経営改革の徹底を図りつつ、重要課題に対応する施策を着実に進めていく必要があります。

【区内の特別区民税徴収額と納税義務者の推移】



＜税金ってどう使われているの？ ～平成15年度予算から～＞

あなたが支払う1,000円は次のように使われます。

- 420円 福祉費** おとしよりや障害者の方、こどもたちなどのために
- 150円 教育費** 教育関係に（学校・幼稚園など）
- 146円 総務費** まちの行事、防災、集会施設、保養所、区役所の管理などに
- 86円 資源環境費** ごみの収集・運搬、リサイクルの推進などに
- 83円 公債費** 特別区債（借入金）の返済に
- 57円 土木費** 道路・公園の整備、緑化の推進、都市整備などに
- 39円 衛生費** 健康診査、予防接種、保健所などに
- 9円 産業経済費** 中小企業の振興などのために
- 9円 議会費** 区議会の運営に
- 1円 諸支出金・予備費** 財政調整基金・減債基金の積み立てなどに

※区の財源には、あらかじめ使いみちの決められていない一般財源と使いみちの決められている特定財源があります。この金額は一般財源を割り返したものです。

あなたも基本構想ワークショップに参加してみませんか

基本構想策定にあたって、広く区民のみなさんの意見を反映するため、区民のみなさんが参加する基本構想ワークショップを開催します。

ワークショップでは、区民の視点で区の将来像を描くとともに、その実現に向けた課題について話し合い、基本構想・基本計画への提案として区長へ報告します。

ワークショップの開催は、本年12月から来年9月までの月1回、土曜日の午後（3時間程度）を予定しています。詳しくは、『広報いたばし』10月18日号（予定）でご案内します。

ぜひ、ご参加ください。

【お問合せ先】板橋区政策経営部政策企画課・計画担当 TEL：3579-2013